

## 病害虫防除技術情報第 8 号

平成 26 年 7 月 7 日

三重県病害虫防除所

**いもち病の発生が確認されています。圃場の点検を行い、  
発生を確認した場合は早急に防除を行いましょう。**

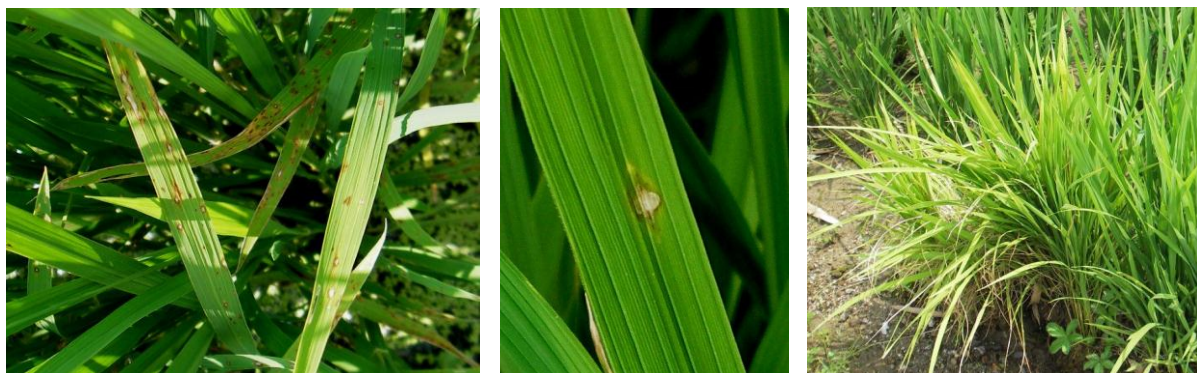
1. 対象作物： イネ

2. 対象病害虫名： いもち病(葉いもち・穂いもち)

3. 発生状況

(1) プラスタムによると、感染好適条件が 6 月 11～12 日、19 日および 22 日に県内の広い範囲で繰り返し現れ、以降も各地域で繰り返し出現しています。

(2) 追加調査(16 地点 61 圃場・6 月 30 日～7 月 1 日)では、6 地点 13 圃場で発生が確認されました。発生圃場では、感染力の強い急性型病斑が認められました(図)。また、放置苗で激しく発病して、本田へ発生が拡大した圃場もありました(図)。



(a) 激しく発病した圃場

(b) 急性型病斑を確認

(c) 放置苗での発生

図 追加調査時(6 月 30 日～7 月 1 日)の発生状況

(3) 1 か月予報(7 月 3 日・名古屋地方气象台発表)によると、期間の前半は平年よりも曇りや雨の日が多く、降水量は平年並か多い予想であり、感染に好適な気象条件が今後も続く予想されます。

4. 防除対策

(1) 圃場の点検を行い、発生を確認した場合は早急に防除して、病勢の進展および拡大を防ぎましょう。

(2) 育苗箱施用を行った圃場でも、残効の低下を考慮して、発生状況を確認しましょう。

(3) 穂いもち防除は、出穂始めから穂揃い期に薬剤散布しましょう。

(4) 飼料用水稻などの普通期水稻は、これから最も葉色が濃くなり、発病しやすい時期となるので注意しましょう。

(5) QoI 剤(ストロビルリン系殺菌剤)の使用は最大年 1 回とし、耐性菌の発生を未然に防ぎましょう。

(6) QoI 剤を使用したにもかかわらず、ざり込み症状などの発病があれば、病害虫防除所、農業研究所、農業改良普及センターや、関係団体へ速やかにご連絡ください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。